

北海道東川町 『東川小学校・地域交流センター』

北海道東川町

【贈呈理由】 ヒートポンプの導入により、環境負荷低減と快適な学校環境を実現



東川小学校・地域交流センター

北海道のほぼ中央に位置する東川町は、北海道最高峰の旭岳を擁し、雄大な自然景観と大地の恵み、大雪山からもたらされる豊かな地下水にあふれており、北海道で唯一、上水道のない町として有名な他、「写真の町」としても名を馳せている。

東川小学校は1898年に開校して118年の歴史ある小学校で、「地域の魅力を生かした夢のある教育環境」をコンセプトに、2014年10月に開拓120年を記念し、地域交流センターを併設する形で移転・新築された。松岡町長の「大人が子どもたちから奪ったものは遊び場である」との思いから、実体験を通じた教育環境が大変充実しており、学校敷地は約4haであるが一体的に整備した果樹園や体験農園、野球場やサッカー場などの特定地区公園などをあわせると約16haにも及ぶ。

**年間を通して快適な空間を実現。
安心・安全の電化厨房を採用**

建築設備には、環境配慮型電化システムである電動ヒートポンプが採用されている。空調は電動ヒートポンプ(個別分散)による床下空調方式で、二重床を利用し、

夏季はトレンチを介した外気導入による涼風を、冬季はヒートポンプの暖房運転によって空気を暖めると同時に躯体のコンクリートに蓄熱させ、輻射作用による穏やかな熱環境をつくり、年間を通して快適な空間を実現している。また、施設内の一部にはエコ・アイスminiを導入し、電力負荷平準化にも寄与している。

東川小学校では自校方式による完全給食を実施している。良質な地場産物を活用した安全で栄養バランスのとれた献立・調理に加え、また、電化厨房を採用することで衛生管理の徹底を図るなど、安心・安全な学校給食を提供している。

給湯については業務用エコキュートを設置し、厨房や手洗いなどに利用している。

**省エネ・省CO₂実現のため、
さまざまな取り組みを実施**

暖房における躯体蓄熱効果の活用や、蓄熱式給湯システムの採用で電力負荷の平準化を行うとともに、LED照明や50kWの太陽光発電設備によって昼間電力消費量を低減している。また、躯体設備には外断熱やパッシブ換気、自然採光を採用し、ト



東川小学校児童用玄関

タルエネルギー消費量を削減することで、環境に配慮した安全で快適に過ごせる空間を実現している。今後も地域に根ざした魅力ある教育活動の推進のために、環境に配慮したさまざまな取り組みを行っていく。

東川小学校・地域交流センター

所在地:北海道東川町西4号北8
 建築設計:アトリエフンク・中原・柴滝・アイエイ特定建築設計共同企業体
 建築施工:新谷・橋本川島・荒井・小岩JV、畠山・盛永・高JV、吉宮・廣野JV
 蓄熱設備設計:(株)アトリエフンク
 蓄熱設備施工:西山坂田・東川特定建設共同企業体
 延床面積:10,922.11㎡
 竣工:2014年(新設)

■蓄熱設備概要
 エコ・アイスmini 5馬力相当×1台【タイキン工業】
 蓄熱槽:0.4㎡
 業務用エコキュート 24.7kW×1台【日本イトミック】
 大型電気温水器 5,025ℓ×1台【日本イトミック】